

# 瀬田川プランクトン調査結果速報

滋賀県立衛生環境センター

琵琶湖水質担当

昭和54年9月10日

第22報

## 植物プランクトン

(綱) 種 名	細胞数 (群体数)	優占種(占有率)	
		数	体積
(藍) <i>Aphanothece clathrata</i> *	80		
(藍) <i>Merismopedia</i> sp.*	20		
(藍) <i>Anabaena macrospora</i> *	80		
(藍) <i>Lyngbya limnetica</i> *	2000	○	
(珪) <i>Melosira granulata</i>	240		
(珪) <i>Melosira italica</i>	40		
(珪) <i>Fragilaria crotonensis</i>	160		
(珪) <i>Nitzschia acicularis</i>	20		
(褐) <i>Cryptomonas</i> sp.	160		
(み) <i>Euglena</i> sp.	20		
(緑) <i>Carteria</i> sp.	20		
(緑) <i>Dictyosphaerium pulchellum</i>	640		
(緑) <i>Pediastrum biwae</i>	23680	◎	◎
(緑) <i>Staurastrum dorsidentiferum</i> var. <i>ornatum</i>	20		○
(藍) 藍藻綱	2180	8.0	4.1
(黄) 黄緑藻綱	0	0.0	0.0
(黄鞭) 黄色鞭毛藻綱	0	0.0	0.0
(珪) 珪藻綱	460	1.7	1.7
(渦) 渦鞭毛藻綱	0	0.0	0.0
(褐) 褐色鞭毛藻綱	160	0.6	1.0
(み) みどり虫藻綱	20	0.1	0.7
(緑) 緑藻綱	24360	89.6	92.4
(他) その他のプランクトン	0	0.0	0.0
総 細 胞 数	27180	総体積	2.64E+07
種 類 数	14	( $\mu\text{m}^3$ )	

注1) 細胞数の単位は(細胞/ml)

ただし \* 印の種は群体数(群体/ml)

注2) 優占種は◎が第1優占種、○が第2優占種

数字は各綱ごとの占有率(単位:%)

注3) 細胞体積は、顕微鏡観察による画像から

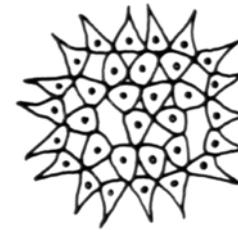
試験的に推定した概算値である。

## 植物プランクトン優占種

第 1 優 占 種		細胞数 (細胞数/ml)
緑藻綱	<i>Pediastrum biwae</i>	23680

第 2 優 占 種		細胞数 (細胞数/ml)
藍藻綱	<i>Lyngbya limnetica</i> *	2000

### 植物プランクトン第1優占種



*Pediastrum biwae*

(ピワクンショウモ)

緑藻綱

16, 32, 64細胞からなる群体を形成する。各細胞は1本の角状突起を持ち、突起同士が対をなすのが特徴である。琵琶湖の固有種とされ、ピワクンショウモと呼ばれている。

### 植物プランクトン第2優占種



*Lyngbya limnetica*

(リングビア)

藍藻綱

糸状体を形成し、細胞は細いサヤの中に入っている。見逃しやすい種である。